

詳しい使い方については必ずお手元の「取扱説明書」をご覧ください。

原稿作成の良い例

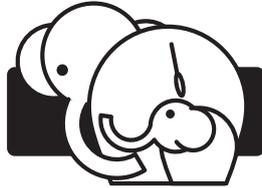
手描き用
コピー用

専用の原稿用紙を使いましょう。

●Tシャツくん専用原稿用紙

●インクジェット専用原稿用紙

インクジェット
プリンタ出力用

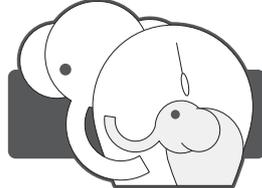


専用原稿用紙を使用
線・ベタを真っ黒にする
線幅は1mm以上

原稿作成の悪い例

規定外の用紙は使えません。

厚手のコピー用紙、ケント紙、感熱紙、再生紙など

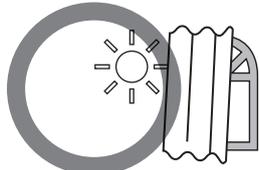


専用原稿用紙以外の紙
ベタが薄い(黒色が薄い)
線幅が1mm未満

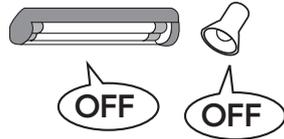
※手描きの際は、必ず顔料系油性インクをご使用ください。
※光に透かしても向こうが透けない程、真っ黒に描きましょう。

作業場所の良い例

紫外線の入らない場所で作業しましょう。

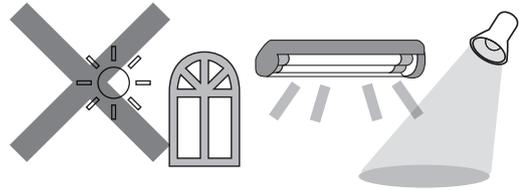


厚手のカーテン



作業場所の悪い例

屋外、窓のある部屋などで作業しないでください。



※窓のある部屋では、必ず厚手のカーテンを閉めましょう。
※水銀灯・スポットライト・ハロゲンライト・ビームライトなど
強い紫外線の出るライトがある場合は消しましょう。

製版時の良い例

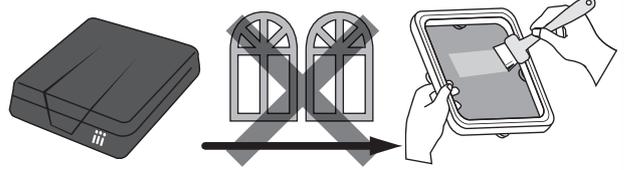
露光前にブラッシングの準備をしましょう。
(あらかじめハケを水に浸して柔らかくしておきましょう。)



※露光が終了したら、
その場でブラッシング作業に
移りましょう。

製版時の悪い例

露光後のスクリーンは持ち歩かないでください。
(ブラッシング作業はその場で行ってください。)



※水場へ移動してから
ブラッシングを行うのは
お止めください。

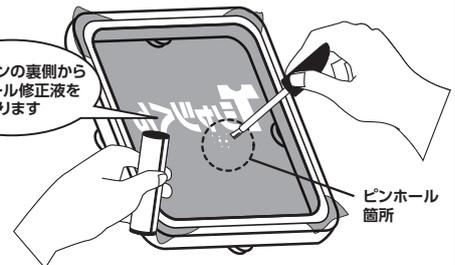
※製版時のスピーディな作業がキレイに仕上げるポイントです。
※露光後は素早くブラッシングをしましょう。
※使用後のハケは固まりやすいので必ず水で洗っておきましょう。

あ！
穴がある！
そんな時は

ピンホール対策には「ピンホール修正液」を使いましょう。

Tシャツくんシリーズは、スクリーン感光法であるため、ハケでブラッシングした際に原稿以外の小さな穴(ピンホール)が発生します。長時間ブラッシングしたり、固いハケを使うとピンホールが発生しやすくなります。ピンホールが発生した場合は「ピンホール修正液」をスクリーンの裏から均一に塗り、自然乾燥させてからプリント作業を行ないましょう。
※ピンホール修正液の詳しい使い方は、商品ラベル記載の説明をご覧ください。

スクリーンの裏側から
ピンホール修正液を
塗ります



ピンホール
箇所

以上のチェック項目を改善しても綺麗なスクリーンが作れない、うまくプリントができない場合には、お気軽に下記連絡先までお問い合わせください。
また、ホームページでもスクリーン製版アドバイス集がご覧いただけます。